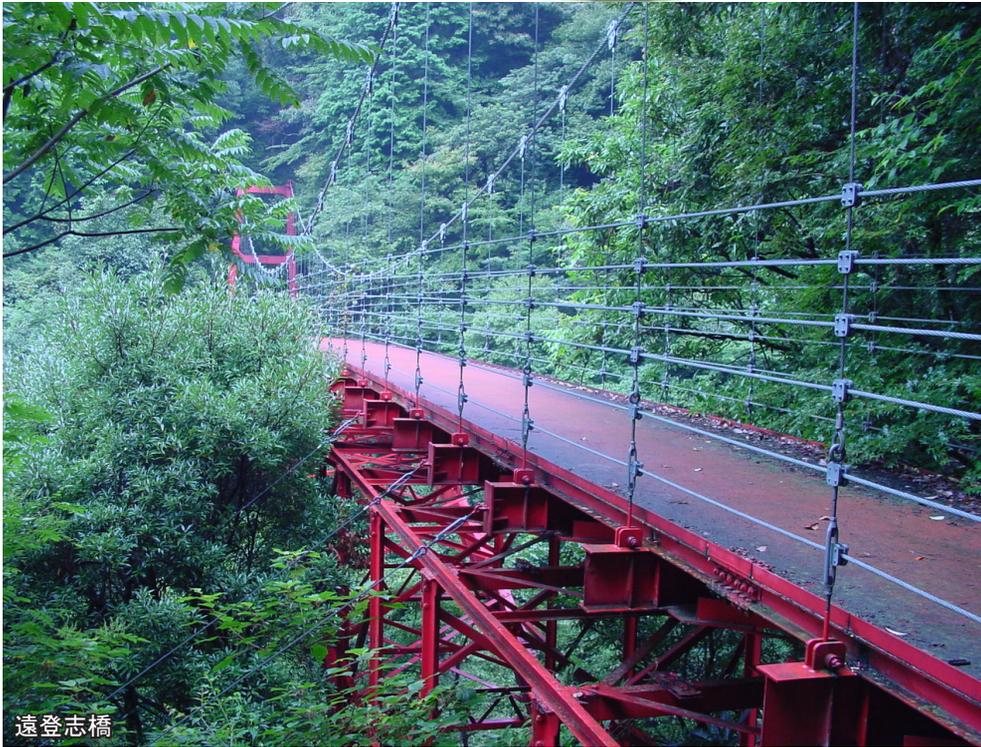


おとしばし
遠登志橋

遠登志橋

日本最古の鉄橋
深緑の中に映える深紅のアーチおとしばし
遠登志橋

は、明治38年(1905)に住友鉱業所(現・住友金属鉱山(株))土木課が、総工費4,198円20銭をかけ建設しました。長さ48.25メートル、幅2メートル、高さ約23メートルでした。日本最古級の鉄橋とも言われ、わが国で明治期に設置された鋼アーチ橋で当時の姿を見ることができるのは、この橋だけです。

この橋は、かつて別子銅山の採鉱本部があり集落が形成されていた東平へ、更に峰を越えて別子山地区へ行く生活道として建設されたものです。

また銅や鉄などの重金属を含む坑内排水が川に混入することを防ぐ木製の坑水路も併設されていました。

旧遠登志橋は、近年老朽化が著しく危険で通行できなくなりました。そこで平成5年(1993)に鉄製ワイヤーロープつり橋を新たにアーチ部分の上に架設しました。長さ50メートル、幅2メートル、高さが約23メートルあります。

平成17年(2005)9月、登録有形文化財となりました。



当時の様子を伝える銅製の案内板

おとしすいりよくはつでんしょあと
遠登志水力発電所跡

は、遠登志橋近くの山の中腹にあります。遠登志水力発電所は、明治37年(1904)に完成しました。東平にある第三変電所と同時期になります。

現在は、東屋を備えた休憩所となり、山の緑や小鳥のさえずり、溪谷を楽しむことができます。



遠登志水力発電所跡が東屋に

